

Peace For Tomorrow

広げよう
平和の心



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

2021.4.1-
2022.3.31
ANNUAL REPORT

ご支援いただいている皆さまに 心から感謝申し上げます

日頃より、日本ユネスコ協会連盟の活動にご支援を賜り、誠にありがとうございます。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大によって、昨年度も大きな影響を受けましたが、皆さまのお力添えにより諸事業を展開することができました。ここに2021年度の活動をご報告するとともに、心からの感謝を申し上げます。

2月のロシアによるウクライナへの侵攻は、『Peace for Tomorrow 広げよう平和の心』をビジョンに掲げる私たちにとって、これまでにない大きな衝撃でした。日本ユネスコ協会連盟では、いち早く「ウクライナ危機に関する声明」を公表するとともに、「ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金」を立ち上げ、ウクライナの避難民への人道支援を開始しました。改めて、創設時の諸先輩方が取り組んだ平和をめぐる問題に、取り組む姿勢を新たにしました。

一方、災害発生時に備え、被災地の子どもたちや学校を支援する「災害子ども教育支援」をスタートできたのは、昨年度の大きな成果でした。これまで被災地の教育支援で培ってきた知見やネットワークを結集し、今後の災害時の教育復興に必要なとされる支援を着実に届ける基盤を構築することができました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響は「ユネスコ世界寺子屋運動」の対象国でも顕著です。カンボジアとネパールでは、学校を辞めざるをえない子どもたちをフォローする活動を拡大しました。パンデミックが引き起こす教育の断絶を防ぐ貢献の一つとなっています。

世界情勢が新たな局面を見せ、困難な状況が続いていますが、このような状況だからこそ、私たちは、平和で持続可能な世界の実現に向けて、なお一層取り組んでまいります。これからも温かいご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2022年7月
公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟

会長 佐藤美樹



もくじ

UNESCO憲章とは	02	SDGs達成に向けた次世代育成	
ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金	03	三菱アジア子ども絵日記フェスタ	16
■ 自然災害発生後の教育支援と減災教育		ユネスコスクール SDGsアシストプロジェクト	17
東日本大震災子ども支援		高校生カンボジア オンラインスタディツアー	18
ユネスコ協会就学支援奨学金	05	寺子屋リーフレット制作プロジェクト	18
MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金	07	■ 民間ユネスコ運動の取り組み	
アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム	08	日本のUNESCO加盟70周年	19
■ 世界寺子屋運動	09	地域から平和で持続可能な社会を	20
■ 一杯のスプーン	12	■ 全国ユネスコ協会・クラブ一覧	21
■ 未来遺産運動・世界遺産活動		■ 維持会員・賛助団体会員／サポーターの声	22
未来遺産運動	13	■ 企業・団体との連携	23
世界遺産活動	15	■ 寄付方法のご案内	24
		■ 寄付者の声	25
		■ 会計報告	26

UNESCO憲章と 日本ユネスコ協会連盟

UNESCOとは UNESCO(国際連合教育科学文化機関)は、国連の専門機関で、第二次世界大戦の惨禍を経験した人びとの「二度と戦争を繰り返さない」という決意に基づいて1946年に創設されました。教育・科学・文化・コミュニケーションの振興、国際協力を通して、平和な世界の構築を目指す政府間機関です。

日本ユネスコ協会連盟とは

日本ユネスコ協会連盟は、UNESCO憲章の理念に基づき、教育や文化の普及・振興を通じたさまざまな活動を国内外で実施しています。民間のユネスコ団体(NGO)として、1948年に創設しました。連盟を構成する各地ユネスコ協会・クラブや企業・団体・個人の会員の皆さまとともに、平和で持続可能な社会づくりを目指して70年以上にわたり活動を続けています。

UNESCO憲章前文より(抜粋)

**戦争は人の心の中で生まれるものであるから、
人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。**

相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信をおこした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。

ここに終りを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳・平等・相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代りに、無知と偏見を通じて人間と人種の不平等という教義をひろめることによって可能にされた戦争であった。

文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、且つすべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神をもって果さなければならない神聖な義務である。

政府の政治的及び経済的取極のみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われなければならない、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。

いまこそ世界に伝えたい UNESCO憲章



ウクライナ危機をはじめ、政変でより厳しい状況に置かれているアフガニスタンやミャンマーなど、世界各地で平和が脅かされています。

UNESCOは政府間機関ですが、その創設目的を達成するには、政府だけでなく、市民の協力が必要だとし、世界の人びとが知的・精神的連帯を果たすことで平和が築かれるという考えに立っています。戦争や紛争は、軍事力の行使や軍備の制限のみでは解決できないことは多くの人びとが認めるところです。

このような時代において、私たちは改めて、「人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と謳うUNESCO憲章を記した先人の意志を受け継ぎ、新たな世界の危機に対応する取り組みを進めていく必要があると考えます。平和で公正な社会の礎をつくるのは教育です。私たちは、教育で平和な世界を目指します。

持続可能な開発目標(SDGs)への取り組み

ゴール4「質の高い教育をみんなに」を重点に活動しています

貧困や教育、ジェンダー、環境、気候などの世界的な課題に対し、2030年までに達成すべき目標であるSDGs。日本ユネスコ協会連盟では、ゴール4「質の高い教育をみんなに」が17のすべてのゴール達成の根幹を成すとの考えのもと、SDGsの達成に貢献します。





避難所で生活するウクライナの人びと、物資支援の様子。
 (写真:チェルノフツィユネスコ文化センター(左、右上)、Petr Voloscuk (PIN SK) (右下))

ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金

平和を取り戻すため 連帯と行動を

2022年2月24日に始まったロシアによるウクライナへの侵攻により、被害は拡大し続けています。侵攻開始から3ヵ月間で、1400万人もの人びとが住む家を追われ、うち約680万以上の人は国外に避難したといわれ、状況はその後流動的です。UNESCOなどによると、学校も多くが破壊されて機能せず、一部では教員の努力でオンライン授業が行われているものの、教育の質、継続性、心のケアなどの課題にも直面しています。6月15日時点でのウクライナ国内で破壊された文化施設・文化財の数は、148にのぼります。UNESCO憲章に謳われる平和の理念を根幹に活動する

支援内容	ウクライナ避難民のための 宿泊・食糧・生活物資の支援
対象地域	ウクライナおよび隣接国の国境地帯
募金受付期間	2022年3月4日～5月31日
募金総額	8101万8277円(2022年6月末日現在速報値)
送金総額	5759万5420円(2022年6月21日現在。引き続き送金を実施)

当連盟は、ウクライナの状況に対する行動として、下記の声明を出すとともに、難民状態にある人びとへの緊急募金を立ち上げました。現地の状況を把握すべく、ウクライナおよび周辺国のユネスコ国内委員会やユネスコ協会に避難者支援活動を確認し、協力要請のあったスロバキアおよびルーマニア両国の国境付近での支援協力を実施するに至りました。民間ユネスコ運動のネットワークに支えられ、この緊急募金には多くの企業・団体・個人からの寄付が集まりました。多くの方々のご賛同に感謝するとともに、一日も早く平和な日々が戻ることを願ってやみません。

ウクライナの危機に関する声明

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」というUNESCOの精神を、日本に世界に広めるために創設された私たち公益社団法人日本ユネスコ協会連盟は、この度のウクライナ危機に重大な懸念を持ち、UNESCO本部の声明を強く支持します。UNESCOの精神に立ち戻り、ロシア政府は、直ちに力による問題解決を中止することを求めます。また世界の人びとは、ウクライナの平和のための声を上げましょう。

2022年2月27日 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟



緊急支援対象地域(2022年6月末日現在)

緊急支援は、ウクライナ国内のザカルパッチャ州、チェルノフツィ市、隣国ルーマニアのスチャバ市で実施しました。

現地支援団体

- ・ルーマニアユネスコ協会センタークラブ連盟
- ・シグヌス科学ユネスコ協会
- ・チェルノフツィユネスコ文化センター
- ・ピープルインニード・スロバキア

from ウクライナ・ザカルパッチャ州



小さな子どもも含め、大勢が一室に滞在している
 (写真:Petr Voloscuk)

スロバキアなどと国境を接するウクライナ・ザカルパッチャ州で活動するNGO、ピープルインニード・スロバキア(PIN SK)を通じて、食糧や生活用品をはじめとする支援を行いました。5月上旬でも同州に来た国内避難民は少なくとも推定40万人でした。15ヵ所を超える大規模な避難所運営のため、洗濯機、ストーブ、大量の寝具なども手配されました。

from ウクライナ・チェルノフツィ市



避難所は女性と子どもたちが多くを占める。
 ケガをした子どもの姿も
 (写真:チェルノフツィユネスコ文化センター)

ルーマニアとの国境から北へ約40kmに位置するチェルノフツィ市にある、チェルノフツィユネスコ文化センター(ユーリ・レフチック会長)が開設する避難所に、衣類・寝具・衛生用品・赤ちゃん用品・食糧などを届け、冷蔵庫や洗濯機も設置しました。侵攻による混乱で国内の資金調達に困難であった中、日本からの緊急募金の送金は大きな助けになりました。

from ルーマニア・スチャバ市



大学生ボランティアによる子ども向けお絵かきイベントでは子どもたちの笑い声も聞こえた
 (写真:シグヌス科学ユネスコ協会)

ウクライナとの国境から南へ約40kmのところにあるスチャバ市を拠点とするシグヌス科学ユネスコ協会(ダン・ミリチ会長)と連携して、同協会が支援するウクライナ避難民滞在施設に生活用品を届けました。必要最小限の着替え程度しか持たず、女性の多い避難民の方々へ、チェルノフツィ市と同様に、衣類や寝具などを提供しました。また、ルーマニア語がわからない避難民のニーズに適切に応えるため翻訳機も手配し、意思疎通に役立てられています。

スチャバ市の支援現場より



「避難した子どもたちと遊んで打ち解けると、少しずつつらい体験を話してくれます。『空襲警報の音がまだ耳に残っている』『あなたは学校に行っているの？私も学校に戻りたい』『絵を描きながらこの壁で、みんなを攻撃から守るの』など。言葉の壁もあって、活動は簡単ではありませんが、自分にできることに取り組んでいます。日本の皆さんの親切なご支援に感謝します。」 スチャバ大学のボランティア学生たち

12年目を迎える被災地で 未来へ向けて 高校進学を支える



2021年度の奨学生たち

東日本大震災から11年が経ち、2022年6月、福島では帰還困難区域の一部でも避難指示が解除されました。また、宮城・岩手では「復興道路」と位置付けられた三陸沿岸道路の全線開通など、復興を象徴するような出来事も見られました。その一方で、いまでも苦しい経済状況が続くご家庭は少なくありません。さらに、コロナ禍も3年目となり、制約の多い生活を送っている人びとが多数います。そのような中、被災地の奨学生たちはそれぞれの夢に向かっていきます。奨学生からは、勉強や部活動、将来の目標に向けてがんばっているという報告が数多く届きました。奨学金は、子どもたちの学校生活に必要な制服や教材、定期代、部活動の費用などに役立てられています。

被災地の子どもたちへの奨学金を給付

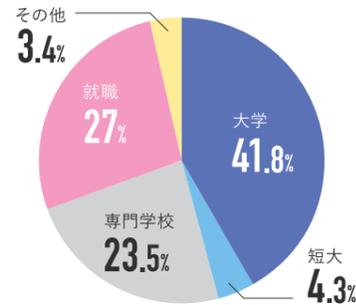
- 対象 東日本大震災の地震や津波による家屋の流失・損壊、原発事故の影響による避難などの理由で、経済状況が悪化した家庭の高校進学を希望する中学3年生(岩手県、宮城県、福島県で被害が大きかった市町村を特定して実施)
- 目的 子どもたちの高校進学を支える。
- 内容 返済不要の奨学金(月額2万円)を3年間給付。

高校を卒業した奨学生たちのそれから

ユネスコ協会就学支援奨学金は、被災地の子どもたちの高校進学を支える奨学金です。10年前に支援した中学3年生は、すでに社会人の年齢に。そこで昨年、震災10年を機に、以前の奨学生の皆さんに、その後の進路についてアンケートで尋ねました。任意でいただいた回答からは、大学進学や就職など新たなステップへと踏み出しているようすが伺えます。

2011~2018年度に支援した奨学生の高校卒業後の進路

回答数588人。アンケート時点で高校卒業前の場合、希望進路の回答を含みます。



奨学生アンケートより

夢に描いていた子どもと関わる仕事に就くことができました。子どもたちに10年前の出来事を伝えながら、震災の記憶を受け継いでいきたいです。

(2013年度採用奨学生)

震災はとてつらくて悲しい出来事ではありますが、私は気仙沼が大好きなので、気仙沼での就職を選びました。当時のことを忘れないよう、でも、明るく前を向いて生きていこうと思います。

(2016年度採用奨学生)

2021年度 事業成果

支援地域	給付人数	奨学金給付額
宮城県/石巻市、岩沼市、気仙沼市、仙台市、多賀城市、名取市、東松島市、女川町、南三陸町、山元町、亘理町	269名	6456万円
岩手県/大船渡市、宮古市、陸前高田市、大槌町、山田町	2011年度からの累計給付人数	2011年度からの累計給付額
福島県/いわき市、相馬市、南相馬市、富岡町、楡葉町、双葉町	3555名	24億7317万円

Voice from 奨学生

野球を通して感謝を伝えたい

山村浩司さん(仮名) 山形県山形市 高校2年生

震災で岩手県山田町の家を失ったので、高台にある祖父母の家を経て仮設住宅に入居しました。そんな中、小学1年のとき始めたのが野球です。2021年に山形県の野球の強豪校に進学しました。練習はきつく、勉強との両立は大変です。でも、お互いに高め合える仲間がいるから、がんばっていきこうと思います。いま野球ができてるのは、寄付してくださった皆さまのおかげです。だから、甲子園に行って日本一になり、野球を通して感謝の気持ちを伝えたいです。



「野球漬けの毎日ですが、野球できることがただ楽しいです」

新しい活動がはじまりました

いつか起こる災害から子どもたちの未来を守るために 災害子ども教育支援

「高校には、いかない」

東日本大震災のとき、ある中学3年生がつぶやきました。就職して、家と仕事をうしなった親を助けたい、と。

その当時、進学をためらう子どもたちのためにと全国から日本ユネスコ協会連盟にお送りいただいた寄付で5000人を超える子どもたちの学びを支援することができました。

これから先、いつ起こってもおかしくない災害がやってきたときも、いつもどおりの学校生活を、進学の道を、将来の夢を守りたい。

どんなときも学びをとめない、明るい未来につなげるための温かい支援をお待ちしています。



災害子ども教育支援は、返済不要の奨学金支援・学校への支援・ユースを対象としたボランティア支援を柱として発災時に被災地の教育復興を支えます。いつ、どこで災害が起こっても、子どもたちが安心して教育を受けられるように、あらかじめ寄付を募ることで、これから起こる災害に備えます。

<https://www.unesco.or.jp/activities/kodomo/>

東日本大震災子ども支援
MUG・ユネスコ協会
東日本大震災復興育英基金

被災地の 子どもたちの 輝く未来を守りたい



「無事、卒業できました!」 「吹奏楽部でオーボエを吹いています」

2011年3月の東日本大震災発生後、被災地の教育復興にいち早く取り組もうと、震災前から環境教育事業で協働していた三菱UFJフィナンシャル・グループとともに、同年4月に標記基金を創設しました。震災当時、小学校に入学して間もなかった81名の奨学生が、2022年3月に高校を卒業し、奨学金の給付を終え、それぞれの道に進みました。学業や部活などに一生懸命取り組んできた奨学生たちとその保護者から、継続的な支援への感謝の言葉がたくさん届いています。

親を亡くした子どもを奨学金で支える

- 対象 東日本大震災で親を亡くした小学生・中学生・高校生(2014年小学校入学児童まで)
- 目的 子どもたちが高校を卒業するまで、長期に渡って学校生活を支える。
- 内容 小学校から高校までの在学期間中、返済不要の奨学金(月額2万円)を給付。このほか、本基金によりこれまでに国際交流プログラムなどを実施。

協力:三菱UFJフィナンシャル・グループ

この春、
高校を卒業した
奨学生より



たくさんの支えがあったからいまがある

「4月から大学生として新たな生活が始まります。1人暮らしを始めるので自立した生活をし、サッカーもプロを目指してがんばっていききたいと思います。これからもさまざまな価値観を持った人たちと積極的にコミュニケーションをとり、視野を広げていきたいです。いままで支えてくださり、本当にありがとうございました。」



小学生のとき(写真右)から続けたサッカー。高校は強豪校に進学した

2021年度 事業成果

支援地域	給付人数	奨学金給付額	2011年度からの累計給付人数	2011年度からの累計給付額
岩手県、宮城県、福島県ほか	275名	6576万円	1486名	22億3066万円

アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

レジリエンスを高め 災害時にも 生き抜く力を育てる



市の防災危機管理室と連携しながらカリキュラムを作成。避難所の備蓄物資で組立訓練を行った(福岡県大牟田市立宅峰中学校)

本プログラムの助成校は、教員研修会などを通して、被災地の学校の教訓や減災教育の理論と実践を学び、自校の減災教育活動の改善に努めました。減災教育を通して、子どもたちが災害を「自分ごと」としてとらえ、災害時に主体的に行動し、命を守るレジリエンス※を高めます。同時に、地域と協働しながら「持続可能な社会の創り手として地域の未来を支える」資質の向上も目指します。

※レジリエンス…困難や脅威、強いストレスなどの状況に適応する能力。自発的な回復力。

活動事例 ① 自治体や近隣の助成校と連携 帝京中学校・高等学校(東京都)

地域と連携し、区の防災啓発イベントで生徒の学習成果を地域住民に発信しました。また、教員研修会をきっかけに、近隣の板橋区立板橋第三中学校(2021年度助成校)と連携して両校生徒が一緒に減災教育に取り組みました。



地域と連携して市民向け研究成果を発信

活動事例 ② 地域との協働による避難訓練とワークショップ 竹富町立古見小学校(沖縄県)

これまで学校まかせの部分があった地域の防災意識を改善するため、地域と協働した避難訓練とともに、地域住民も参加したワークショップを実施。その結果、児童・地域住民が災害を自分ごととしてとらえられるようになりました。



地元消防団の協力のもと、地域住民とともに避難訓練・ワークショップを実施した

2021年度 事業成果

学校の防災・減災をサポート

- 対象 小学校、中学校、高校
- 目的 学校の先生方が東日本大震災などの被災地の経験や教訓を学び、学校現場の実践を通じて、全国の学校の減災教育を強化・改善する。
- 内容 活動助成(10万円/校)、教員研修(被災地訪問など)、活動報告会、減災教育フォーラム(公開)を実施。

協力:アクサ生命保険株式会社/後援:文部科学省/プログラムコーディネーター・講師:及川幸彦先生(奈良教育大学)/ファシリテーター・講師:上田和孝先生(新潟大学、SEEDS Asia)/研修協力:認定特定非営利活動法人SEEDS Asia、気仙沼市教育委員会、気仙沼市立階上小学校、気仙沼市立階上中学校、宮城県多賀城高等学校

活動助成	教員研修会参加者	活動報告会参加者
27校	27校 33人	27校 27人
(18都道府県)		
減災教育フォーラム参加者	活動助成に参加した児童・生徒	
131校 関係団体など 140人	27校 5610人	
活動助成に携わった教員・保護者・地域住民など	2014年度からの累計助成校	
27校 2432人	190校、7万2903人	



コロナ禍でも 学び続けられる 環境を!

Learning Never Stop!

すべての人に教育の機会を提供

- 対象 途上国で紛争や経済的事情で学校に通えない子どもたちや、教育を受けられないまま大人になった人びと(学校を中途退学した子どもや非識字者)
- 目的 教育によって貧困のサイクルを断ち切り、寺子屋を拠点に地域の発展も目指す。
- 内容 識字教育、小・中学校クラス、職業訓練、収入向上プログラム、研修活動など、学びの機会を提供。

厳しさを増す途上国の教育環境 “学びたい”を守るために

2020年から続くコロナ禍や、2021年に起きたミャンマー、アフガニスタンでの政変などで、途上国の教育を取り巻く環境は厳しさを増しています。休校やロックダウン、遠隔教育の未整備により、世界各地で教育が中断。世帯収入の減少で、子どもの中途退学や早婚の増加も指摘されています。貧困層や弱い立場にある人びとほど直接的かつ大きな影響を受けています。ユネスコ世界寺子屋運動は、一人でも多くの方が教育をあきらめずに続けられるように、そして貧困のサイクルを断ち切るために、寺子屋を通じた教育支援を続けています。



2022年3月、カンボジアに建設した寺子屋で本を読む子どもたち

収入向上・生活支援活動

子どもたちが学びを継続するには、家計の安定が欠かせません。仕事につながる職業訓練、養牛の技術指導、小口融資などに多くの住民が参加し、生活向上につなげています。コロナ禍での家計の安定にも大きく貢献している活動です。

教育活動

すべての学びの土台である識字クラスを基本に、対象年齢層ごとのクラスがあります。コロナ禍で小学校を中途退学した子ども向けに復学・進学支援を行うなど、学びの継続を大切にしています。



※カンボジアの寺子屋の場合

世界中に大きな影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症。とりわけ途上国の教育への打撃は深刻です。そのような状況の中、寺子屋による支援の役割はますます大きくなっています。それは、寺子屋が学びの継続を重視し、柔軟かつ多様な活動を展開しているからです。事業開始以来、紛争や貧困に苦しむ人たちのために、どのような状況下でも誰もが学べる場をつくらうと努めてきました。寺子屋の持続性を担保するため、運営基盤の強化にも取り組んでいます。

1989年からの参加国・地域数 累計参加者数
44カ国1地域 135万人



地域ぐるみで 「誰ひとり取り残さない」教育を

カンボジア事務所 ノン・ブッタ所長

カンボジアでは、長引くコロナ禍で教育格差の広がりが懸念されているなか、寺子屋は地域ぐるみで学びを続けられる環境をつくり、「誰ひとり取り残さない」教育を目指しています。また、コロナ対策でマスクの配布や保健指導などを迅速にできたのも、寺子屋が地域コミュニティの拠点として機能していたことが大きく寄与しています。

マイケル・ジャクソンさんの寄付で スタートした 「ユネスコ世界寺子屋運動」

マイケル・ジャクソンさんが初のワールドツアーで日本を訪れた1987年。「学ぶ機会に恵まれない途上国の子どもたちのために」と、日本ユネスコ協会連盟に寄付の申し出がありました。マイケルさん愛用品のチャリティオークションと、肖像入りゴールドメダル発行の収益金を全額寄付くださるというものでした。私たちはこの寄付を貴重な原資として、1989年に「ユネスコ世界寺子屋運動」をスタートしました。当時対応した尾花珠樹事務局長が、なぜ寄付先に民間ユネスコ運動を選んでくださったのかと尋ねると、「あなたたちの支援活動がギフトでなくコー・アクションだったから。その理念に共感したからです」と控えめな声で答えたマイケルさん。



愛用品贈呈式でマイケルさんと握手する尾花事務局長(当時)

コー・アクションとは、Co-Operative Actionの略。支援する側も受ける側も、同じ地平に立つとともに行動する。ユネスコ精神そのものといえるこの姿勢を大切に、私たちはこれからも活動を続けます。(鎌倉ユネスコ協会会報[2009年9月1日発行]に掲載の尾花珠樹さんの寄稿文より構成)

マイケルさんの肖像、直筆サインとともに
"For UNESCO Co-Action"と刻印されたメダル



タンసు遺産3兄弟キャラクター ©DENTSU INC.

書きそんじハガキ・キャンペーン2021 5464万円相当のタンసు遺産が集まりました!

書きそんじハガキ、未使用切手や金券などの「タンసు遺産」を募金に換えるキャンペーン。世界寺子屋運動を支える大きな力となっています。個人の方々をはじめ、SDGsを推進する企業や団体、多くの学校のご協力がありました。「世界の子どものために役立ててください」というお便りもたくさんいただき、「コー・アクション」の精神はいつも息づいています。

SDGs
主な対応目標



カンボジア

寺子屋のコミュニティパワーで 895人がクラスを受講

長引くコロナ禍を受けて、寺子屋のある地域の住民が自らの力で困難を乗り越えられるよう、2021年度も多様な活動を行いました。成人識字クラス、小・中学校クラスなどの教育活動で895人、養牛や収入向上活動に136世帯が参加し、知識や技術を学びました。とくに小・中学校の中途退学の増加を受け、クラス数を増やしています。また、各クラスの教員と寺子屋運営を担うリーダー向けの研修も重視した支援を行いました。

20軒目の寺子屋完成

シェムリアップ州スレイナム郡トラム・ササー・コミュニティに、新しい寺子屋ができました。住民の96.5%が稲作、野菜栽培、養牛・養鶏などの農畜産業で生計を立てており、貧困率は推定36-40%と高い水準です。また、学校に行っていない子どもは全体の10%以上のほります。住民からは、識字クラスや職業訓練とともに、小学校クラスなどにも期待が寄せられています。



成人識字クラスの学習者は女性が75%を占めた。寺子屋以外の施設も教室として利用している



新たに完成したトラム・ササー寺子屋

学習者の声

ガー・ソダさん
(ボベル寺子屋 小学校クラス 13歳)



「両親が仕事をする間、弟や妹の世話をするため、2年前に小学校をやめました。いまは、また勉強ができてうれしいです。寺子屋では友だちに会えるし、新しいことを学べます。先生は物知りで優しく、何でも質問しやすいです。私も将来、先生になりたいです。」

2021年度 事業成果

寺子屋建設	成人識字クラス	小学校クラス	オンライン中学校クラス
1軒	498人	286人	11人
中学校進学支援	養牛	小口融資	
100人	6世帯	130世帯	

ミャンマー

子どもたちに学ぶ機会を 届けることを目指して

家計のため小中学校を退学して働く10~17歳の子どもたち480人が参加する「継続教育プログラム」は、2021年2月のクーデター後休止しています。学習者やその家族から再開を求める声もありますが、現地関係者と慎重に検討を続けています。民主政権時代から教育省が実施してきた、中途退学児童生徒向けの小・中学校クラスが再開されたという情報もあり、今後も厳しい制約の中で私たちにできることを模索していきます。



再開が待たれる継続教育クラス(写真は2019年)

アフガニスタン

再び教育の危機に 見舞われて

2021年度は4~8月の間、成人女性向け識字クラス(25クラス)、職業訓練クラス(15)、コロナ禍で困窮した家庭の子どもたちを対象とした小学校クラス(8)を計画し、準備を進めました。政変が起きたのは、教員選定や研修会を終え、学習者を迎えるばかりとなった矢先でした。18軒

目となる寺子屋建設に向け、候補地の調査も計画していました。今後の活動は、公教育の再開状況や現地の情勢を踏まえて検討しています。

熱意ある女性たちが識字クラス教員研修に参加した(2021年7月)



ネパール

学校に行けない子どもたちへの 支援を拡大

コロナ禍による中途退学者や児童婚の増加リスクを念頭に、学校に行けない子どもの多い南部ルンビニ地域で活動しています。2021年度は小・中学校クラスを中心に、子どもの支援を強化。また、保護者が子どもの教育を支えられるように、親子が読み書きと伝統文化を教え合う家庭内識字や、識字と職業訓練を組み合わせたプログラム、子育て相談や早婚防止の意識啓発も行いました。

読めるように、親子が読み書きと伝統文化を教え合う家庭内識字や、識字と職業訓練を組み合わせたプログラム、子育て相談や早婚防止の意識啓発も行いました。

小学校クラスで学ぶ子どもたち

2021年度 事業成果

幼稚園クラス	小学校クラス	中学校クラス
204人	568人	58人
家庭内識字クラス	識字と職業訓練クラス	
400人(親子200組)	460人	

一杯のスプーン

苦境にある9万人の人びとに医療と栄養を

首都カブール市内にあるサハ医療センターへの支援を行いました。前政権崩壊による混乱の中で、活動を取り巻く環境は厳しくなっています。物価の高騰で、薬品や食料品の値段が20~50%も上がっています。医療関係者の退避や外国NGOの撤退で、安価ないし無償で医療を受けられる場所も減り、センターを訪れる患者数は増加しています。

低体重と診断された子どもの家庭には、米や豆などの食糧品を支給

2021年度 事業成果	サハ医療センターで診察・治療を受けた人	栄養失調により食糧支援を受けた子ども
	9万6613人	2118人

一杯のスプーン

寺子屋で無料診療の支援

ルンビニの9軒の寺子屋で、学習者を中心とする貧困層の人びとを対象に、無償の巡回診療や保健指導を行いました。内容は一般的な健康診断から眼科など、地域の要望に合わせてさまざま。各地域共通して、妊産婦や幼い子どもへのケアや栄養指導のニーズが高く、各寺子屋で多くの人びとが参加しました。

寺子屋での無償巡回診療(眼科)

2021年度 事業成果	巡回診療	母子保健	公衆衛生など
	3012人	662人	290人

みんなの「スプーン一杯分」の支援を結集し、一人でも多くの命を救う

- 対象 途上国の飢餓、医療不足状態にある人、緊急支援を要する人
- 目的 世界の飢餓や難民救済に尽力した作家の故犬養道子さんが「スプーン一杯分の食糧を節約して、より恵まれない人びとと分かち合おう」と提唱したことから1974年に始まった活動。
- 内容 アフガニスタンとネパールの医療施設や寺子屋を通じて、医療・保健・食糧などの支援を実施。2022年3月~5月はウクライナ避難民に対する緊急支援を実施(P3~4参照)。



日本の文化や自然を守り伝える活動を応援



「現代版組踊『肝高の阿麻和利』と『キムタカのマチづくり』」(写真提供:あまわり浪漫の会)

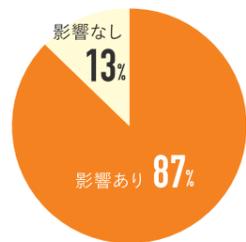
持続可能な社会の実現に文化が果たす役割について、UNESCOもその重要性を強調しています。未来遺産運動では、市民レベルでの文化や自然の継承・保護の推進を通して、SDGsの達成に貢献しています。コロナ禍で世界的にも文化や自然の継承に影響が生じている中、2021年度は、全国73の「プロジェクト未来遺産」を対象に活動への影響を調査しました。アンケートで明らかになった課題やニーズをもとに、資金面の支援や、プロジェクトの広報強化、プロジェクト同士の交流促進を図り、活動の活性化を後押し。初開催となったオンライン交流会では、全国のプロジェクトが画面越しにつながり、地域の垣根を越えた連携の可能性が広がりました。

日本各地の伝統文化や自然を守り、未来につなぐ

- 対象 地域の文化、自然の保護・継承に取り組む市民団体の活動
- 目的 地域の有形、無形の文化や自然を100年後の子どもたちにつなぎ、伝える。
- 内容 「プロジェクト未来遺産」の登録。交流会や応援金を通して市民活動を応援。

アンケートで明らかになった コロナ禍の影響と課題

回答のあった61団体のうち53団体で、活動の中止や収入の減少などの影響があると答えました。アンケートでは、団体の高齢化や認知度の不足など、コロナ禍以前からの課題も浮き彫りになりました。



アンケート結果
新型コロナウイルス感染症による活動への影響

アンケート回答より

イベントや集落内事業(お祭り)の中止によって、地域内の交流の場が減少しました。 **有形文化のプロジェクト**

研究会、講演会の延期やコロナ対策に費用を要するなど、収入が少なく支出が増えて、会の運営が金銭的に苦しくなっています。 **無形文化のプロジェクト**

メンバーの高齢化が顕著な中で、コロナ禍により活動への参加者が減り、植樹サポーターなどの新規メンバーを募ることが困難となっています。 **自然分野のプロジェクト**

2021年度 事業成果

オンライン交流会参加プロジェクト	応援金(各10万円)	2009年度からの「プロジェクト未来遺産」累積登録数
24プロジェクト	8プロジェクト	37都道府県 73プロジェクト

オンライン交流会で団体間の情報交換

コロナ禍だからこそ実現したオンライン交流会には、無形文化の9団体と有形文化の15団体がそれぞれ参加し、活動を推進していく上での課題や工夫について意見交換を行いました。参加団体からは、「課題解決に向けて広い視点を取り入れることができた」「全国にさまざまな努力をしている方がいることに勇気づけられた」といった声があがりました。



交流会には多くの団体が参加した



参加団体から

- 1 「山口鷺流狂言伝承者育成プロジェクト～子ども達に残す鷺流狂言～」(山口県/山口鷺流狂言保存会)
- 2 「福野夜高祭～『災厄からの復興の心』を引き継ぐプロジェクト～」(富山県/福野夜高祭連絡協議会)
- 3 「八女福島 空き町家と伝統工法の再生による町並み文化の継承」(福岡県/NPO法人八女町家再生応援団 NPO法人八女町並みデザイン研究会)
- 4 「英田上山棚田再生プロジェクト～未来へつなぐ棚田8300枚～」(岡山県/NPO法人英田上山棚田団)

応援金でコロナ禍の資金不足をサポート

コロナ禍でとくに影響を受けている無形文化の8プロジェクトに対して、応援金を支給しました。応援金は、活動資金の一部にあてられたほか、公演のライブ配信用ホームページの作成などに役立てられました。

ライブ配信された歌舞伎公演のようす
(「みんなであぶこ!!!プロジェクト～農村歌舞伎伝承～」)



未来遺産運動のホームページをリニューアル! 73プロジェクトの魅力をお届けます

日本各地で活動する「プロジェクト未来遺産」の魅力をより多くの方々に届け、全国に応援の輪を広げるべく、未来遺産運動の紹介ページをリニューアルしました。73プロジェクトの紹介や地図検索機能など、充実したページへと生まれ変わりました。

<https://www.unesco.or.jp/activities/isan/heritage-for-the-future-project/>



豊富な写真とともにプロジェクトを紹介



世界遺産活動

世界遺産の“体感”学習で文化を守る担い手を育む



塗り絵教材を手に遺跡を訪問した子どもたち

塗り絵教材

塗り絵をしながらアンコール遺跡群などについて学ぶことができる



カンボジアの子どもたちを対象にした世界遺産訪問学習を2009年から行っています。専門家の研修を受けた教員が、本事業のために制作した「塗り絵教材」を使用し、寺子屋の子どもたちに世界遺産の価値を教えています。子どもたちはアンコール遺跡群やカンボジアの文化について学んだ上で実際に遺跡を訪問し、理解を深めます。自国の文化や歴史に親しみ、興味をもった子どもたちが、将来、遺産を守る担い手になっていくことが期待されます。

学習者の声

ホン・タブリーさん(口ハル寺子屋)



「こんなに大きな遺跡を見たのは初めてです！先生から世界遺産に行けると聞いたときは、とてもうれしくて、ここに来るまでの残り日数を指折り数えて楽しみにしていました。」

バイオン寺院の修復ではカンボジア人技能員を育成

カンボジアでは世界遺産学習のほかに、2012年から2020年まで「バイオン寺院シンハ像・ナーガ像修復プロジェクト」を実施しました。アンコール遺跡群のひとつであるバイオン寺院のナーガ像73体、シンハ像23体、欄干の721部材の修復と、それに係る技能員を育成。未経験から遺跡修復の現場を支える人材となったカンボジア人技能員は、現在も作業に携わっています。



バイオン寺院で修復作業にあたるカンボジア人技能員 ©NFUJ/JST,JASA

首里城復興 ユネスコ募金 追加寄付完了報告

2019年に火災で焼失した首里城の復興を支援する標記募金は、お寄せいただいた4247万6285円の全額を、首里城の復興事業に取り組む沖縄県および一般財団法人沖縄美ら島財団へ寄付しました。(2020年10月28日に沖縄県へ3000万円、沖縄美ら島財団へ896万928円を寄付。2022年3月31日に沖縄県へ351万5357円を追加寄付)



人材育成と普及啓発活動で世界遺産を守る

■対象 主に途上国の世界遺産

■目的 技術、人材、資金不足などにより、世界遺産の保護・保全が困難な国の修復活動や人材育成を支援し、その国の人びとの手で世界遺産が持続的に継承されることを目指す。

■内容 遺跡の修復事業やそれに係る人材育成。子どもたちへの世界遺産教育、普及啓発活動。近年はカンボジアの「アンコール遺跡群」でプロジェクトを実施。

2021年度 事業成果

世界遺産訪問学習参加者数 塗り絵教材配布数

6寺子屋 215名 725部

これまでに支援した主な世界遺産

- 「バガン遺跡」(ミャンマー)
- 「フィリピン・コルディリエーラの棚田群」(フィリピン)
- 「パーミヤン渓谷の文化的景観と古代遺跡群」(アフガニスタン)
- 「カトマンズの谷」(ネパール)
- 「仏陀の生誕地ルンビニ」(ネパール)

三菱アジア子ども絵日記フェスタ

アジアの国々から届いた2万7223作品の絵日記



Bangladeshのグランプリ受賞者 サンジダ タバスムさん(11歳 受賞当時)の絵日記作品

第15期(2021~2022年)の「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」では、22の国と地域から2万7223作品の応募がありました。新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウンや休校の影響で、参加国・地域や応募数は減少しましたが、子どもたちがマスクをして外で遊ぶようすやワクチン接種風景を描くなど、コロナ禍ならではの作品も届きました。2022年度は、7月に予定されていた国際表彰イベントは中止となりましたが、9月に国内表彰式や絵日記展示会を計画しています。

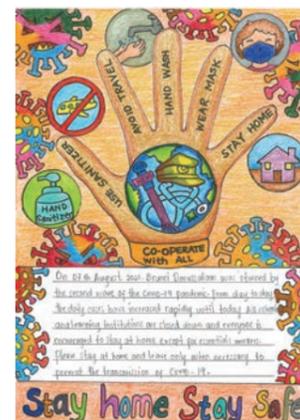


名古屋で行われた絵日記作品の原画展

絵日記を通した子どもたちの国際理解教育

- 対象 アジア24の国と地域の子ども(6~12歳)
- 目的 絵日記を描くこと、見ることを通して、次代を担う子どもたちが互いの文化を知り、尊重し合う心を育む。
- 内容 1990年から各国の子どもたちが描いた絵日記を募集するコンテストを実施。各国のグランプリ作品の展示会や国際表彰式を開催。

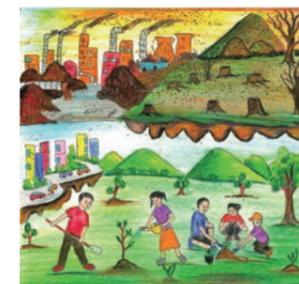
共催:三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟



ブルネイのグランプリ作品
モハマッド・エルフィー・ダーウィッシュ・ビン・アリー・ラヒマンさん(9歳 受賞当時)
新型コロナウイルスによって感染者が増え、学校が閉鎖されたことなどを描いています。



日本のグランプリ作品
石橋 沙和佳さん(8歳 受賞当時)
お寺で飼っているチャボを見に行くと、エサをあげたりして遊んだようすを描いています。



ラオスのグランプリ作品
アナンサイ・ノルケオさん(10歳 受賞当時)
両親から、地球温暖化を防ぐためには植樹が大事であることを教わったことを描いています。

2021年度 事業成果

参加国・地域数	参加者数	累計応募者数
21カ国1地域	2万7223人	84万4765人

ユネスコスクールSDGs アシストプロジェクト

教育の未来を見据えて SDGsの課題に 取り組む



海辺に生息するアマフラシに触れて生きものに親しむ心を育む(宮城県気仙沼市立松岩小学校)

2021年度は、株式会社三菱UFJ銀行のご協力のもと78校への助成が決定しました。UNESCOが発表したグローバル・レポート「教育の未来報告書2021」の提言も見据えて、教育現場におけるSDGsへの貢献を後押ししています。

活動事例 SDGs視点でマンガを読み解く 「まんがでSDGs!」プロジェクト

湘南学園中学校高等学校(神奈川県)
※対象:中1~高3(1144人)

子どもたちがさまざまなマンガ作品をSDGs的な視点から読み解き、それらを紹介した「まんがでSDGs!」のパンフレットを作成。完成した冊子は、地域イベントで紹介したり、図書館・書店と連携したりすることで、SDGsについて学内外に広く啓発しました。

助成金の用途

「まんがでSDGs!」
パンフレット制作費、
郵送料など



身近なマンガを用いたことでSDGsへの理解が深まった

活動事例 城南の豊かな森を取り戻せ 白もくれんの並木再生プロジェクト

岡崎市立城南小学校(愛知県)
※対象:3学年(230人)、その他36人(地域住民、
保護者、樹木医、造園業者など)

30年以上前に同校に植樹されたハクモクレン(約40本)を再生させるため、枯れた原因を探るとともに、樹木医から「手当て」の方法を学ぶなどして再生・保護活動を行いました。学んだ内容は、発表会や広報誌、論文などを通して、他学年や地域、教育関係者に発信しました。

助成金の用途

ハクモクレン苗木・
標柱・看板代、クリア
ファイル製作費、講師
謝金、軍手等消耗品
など



ハクモクレンの世話を通して気候変動や環境問題にも目を向けるようになった

助成校活動発表会を実施しました

2021年度は、助成校同士の交流に焦点を当てた「活動発表会」をオンラインで開催し、全国各地に住む助成校の子どもたち(小学校6校)が、各校の特色ある活動を紹介しました。



当日の様子を
約6分にまとめた
動画です。



Zoomによるオンラインでの発表の様子(気仙沼市立立小学校)

学校でのSDGs推進活動をサポート

■対象 ユネスコスクールおよび
ユネスコスクール・キャンディデート※

■目的 学校で行うSDGs達成への取り組みを推進する。

■内容 必要な教材費や活動費を助成(最大30万円/校)、
活動発表会を実施。

※ユネスコスクール・キャンディデートとは、チャレンジ期間を終了し国内審査を終え、UNESCOに申請中(または行う)段階にある学校。

協力:株式会社三菱UFJ銀行 後援:日本ユネスコ国内委員会

2021年度 事業成果

活動校	参加した児童・生徒数	2009年度からの 累計助成校
95校	1万6204人	1132校

高校生カンボジア オンラインスタディツアー

オンラインで 世界とのつながりを 実感



質問コーナーでは司会者が対処しきれないくらい多くの質問が寄せられた

毎年参加者から高い評価を得ているスタディツアー。2021年度もオンラインで開催しました。2019年度の参加者が運営を担い、参加校とカンボジア事務所・寺子屋・学習者の自宅を中継でつなぎました。質問やクイズを出し合うなどして双方向で交流するとともに、そこで学んだことを参加校同士で共有し、「自分たちができること」について考えました。

ツアーのようすを
YouTubeで公開中
約2時間のスタディツアー
を全編公開しています。



2021年度 事業成果

参加校	参加した生徒	2014年度からの累計参加者
14校	約200名	約358名 (うち約300名は オンラインツアーへの参加)

カンボジアの人びととの交流を通して 国際理解を深める

■対象 ユネスコスクール(ユネスコスクール・キャンディデート
含む)または「世界寺子屋運動」関連事業参加校の高校
生※2021年度の場合

■目的 教育・国際協力の視点からカンボジアが抱える諸課題を
学び、自分たちができることを考え、国際理解を深める。

■内容 高校生がカンボジアを訪れ、寺子屋の授業見学や交
流、世界遺産見学、学習者の家庭訪問などを実施。
2020年度以降は、コロナ禍により内容を一部変更し、
オンラインで実施。

協賛:公益財団法人かめのり財団

寺子屋リーフレット制作プロジェクト

世界への思いを込めて 1800人の子どもたちが制作

2021年度も、優れた作品を選出する「リーフレット・コンテスト」に多くの力作が集まりました。また、オンラインを活用したキックオフ会(教員向け)や、参加校の子どもたちを対象とした制作報告会などを通して、参加校間の交流も行いました。



2021年度最優秀賞(日本ユネスコ協会連盟賞)を受賞した
北鎌倉女子学園高等学校 増田碧さんの作品

リーフレット制作で 世界の識字問題にアプローチ

■対象 小学校、中学校、高校

■目的 子どもたちが世界の現状について学び、気づ
き、行動する力を育む。

■内容 識字問題をはじめとした世界的課題を学んだ子ども
たちが、デジタル機器を用いて、「世界寺子屋運動」の
書きそんじハガキ・キャンペーンのリーフレットを制作。
制作したリーフレットを用いて、ハガキを集める活動を
各校で実践。

共催:一般社団法人デジタル表現研究会、株式会社教育新聞社

2021年度 事業成果

参加校	参加した児童・生徒	2003年度からの 累計参加校参加数
24校	約1800名	527校



SDGs17のゴールすべてが
対応目標です

SDGs
主な対応目標



SDGs達成に向けた次世代育成

SDGs達成に向けた次世代育成

日本のUNESCO加盟から70年が経ちました



民間ユネスコ運動は、UNESCO憲章の理念に感銘を受け、日本のUNESCO加盟を目指した人びとによって生まれました。この運動は官民一体の取り組みとして全国に広がり、サンフランシスコ講和条約締結前の1951年7月2日に加盟承認という形で結実。2021年は日本のUNESCO加盟から70周年を迎え、記念のロゴマーク(左)もつくられました。日本ユネスコ協会連盟や全国のユネスコ協会・クラブでは、多くの「UNESCO加盟70周年記念事業」を展開。そのような折、ウクライナ侵攻が始まり、平和を求める人びとの連帯が一層重要になりました。ウクライナと隣国ルーマニアのユネスコ協会などとともに実施したウクライナ避難者支援では、多くの方々にご協力いただきました。これからも民間ユネスコ運動として平和の構築に取り組んでいきます。

UNESCOと日本のあゆみ

(青文字は民間ユネスコ運動の動きです)

- 1945年11月16日 UNESCO憲章採択
- 1946年11月4日 UNESCO創設
- 1947年7月19日 仙台ユネスコ協力会(当時)発足
- 1947年11月27日 第1回ユネスコ運動全国大会開催

- 1948年5月1日 日本ユネスコ協力会連盟(当時)結成
- 1951年7月2日 日本のUNESCO加盟
(日本が戦後最初に加盟した国連機関)
- 1951年8月14日 日本ユネスコ協会連盟に改組
- 1956年12月18日 日本の国際連合加盟

一人ひとりが平和の担い手

UNESCOは政府間組織ですが、平和な世界を実現するには各国政府だけでなく、市民の協力が必要だと憲章で謳っています。憲章が求める人類の連帯は、世界の人びとの理解と共感があって初めて可能になるからです。



世界に広がる

民間ユネスコ運動のネットワーク

アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟(AFUCA)は、1974年に日本が主導的な役割を果たして創設された団体です。「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」(P16参照)を共催するなど、アジア地域での民間ユネスコ運動に重要な役割を果たしています。また、世界ユネスコ協会クラブ・センター連盟(WFUCA)は、1981年に設立され、78の国と地域で約4200のユネスコ協会やクラブが活動しています。ウクライナ避難者への支援では、WFUCA加盟団体であるルーマニアユネスコ協会センタークラブ連盟や、所属団体であるシグナス科学ユネスコ協会と連携して活動を行っています。

地域から平和で持続可能な社会を

270を超えるユネスコ協会・クラブ。2021年も、「絵で伝えよう!私の町のたからもの」絵画展や、平和イベント「平和の鐘(かね・おと)を鳴らそう」などの全国的な活動から、各協会・クラブ独自のものまで、多様な活動を通して、平和で持続可能な社会を目指しました。



2021年度はオンラインや展示会など、形を変えて国際理解を促進した(写真はコロナ前のもの)

子どもたちの国際貢献の意欲を育む「国際理解バス」

群馬県ユネスコ連絡協議会(群馬県)

群馬県内のユネスコ協会では、1979年から子どものための国際理解ツアーを実施。各国大使館やJICA訪問、世界遺産の見学、異文化交流などを通して、子どもたちの視野を広げます。



文化財修復は、過疎化が進む地域での世代間交流の促進にもつながった

高校生と住民がタッグ 文化財修復の波及効果

津山ユネスコ協会(岡山県)

法福寺の仁王門欄間修復に、地域の高校生と住民がともに取り組むことで、文化保護支援のみならず、地域活性化にも大きく貢献。さまざまな世代が地域課題解決に参加する場となりました。



パソコン操作が不慣れな人にも新しい募金方法を知ってもらいきっかけとなった

クラウドファンディングで コロナ禍の募金活動

札幌ユネスコ協会(北海道)

街頭募金など対面の募金活動がコロナ禍で制限されるなか、ネットで支援者を募るクラウドファンディングを実施。募金による社会貢献を促し、98人から143万5000円が集まりました。



出前授業では、子どもたちが興味を持つようにイラストを使ってSDGsを伝えている

出前授業、作文コンクールで 学校と連携してSDGs達成へ

いわきユネスコ協会(福島県)

いわき市内の小学校でユネスコ活動やSDGsに関する出前授業を実施。平和作文コンクールでは毎年約2000人が応募。子どもたちが学校教育を通して平和推進やSDGsに取り組めるよう後押ししています。



旭川デザインウィークのイベント「まちなかキャンパス」では、デザイン視点から平和構築を伝えた

UNESCO創造都市ネットワーク(UCCN)※に参画

旭川ユネスコ協会(北海道)

旭川市のUCCNに、商工会や業界団体、教育機関とともに推進メンバーとして参画。旭川ユネスコ協会では、UNESCO理念の理解促進、SDGs関連イベントの企画・運営などの役割を担っています。

第77回 「日本ユネスコ運動全国大会 in 大阪」を開催



2年ぶりとなる全国大会が堺市の桃山学院教育大学を会場に開催されました。会場参加とオンライン参加を併せた形式で、地域ユ協の活動紹介やパネルディスカッションなどが行われました。

「ブロック別 ユネスコ活動研究会」も 2年ぶりに6ブロックで実施



2020年度に全9ブロックで中止になったブロック研究会は、2021年度にはSDGsやジオパーク、文化など多様なテーマで、6ブロックにおいてオンライン形式を中心に実施されました(東北および中部西ブロックは中止)。

※UNESCO創造都市ネットワーク(UCCN):創造性(文学、デザイン、食文化など)を核とした都市間の国際的な連携によって、地域の発展、都市の持続可能な開発を目指すもの。現在90か国以上295都市が加盟。日本では旭川市をはじめ10都市が加盟。



民間ユネスコ運動の取り組み

民間ユネスコ運動の取り組み

全国ユネスコ協会・クラブ一覧 (2022年6月現在)

北海道ブロック (20)

- 北海道ユネスコ連絡協議会
- 旭川ユネスコ協会
- 岩内ユネスコ協会
- 小樽ユネスコ協会
- 帯広ユネスコ協会
- 釧路ユネスコ協会
- 札幌ユネスコ協会
- 千歳ユネスコ協会
- 函館ユネスコ協会
- 室蘭ユネスコ協会
- 石狩ユネスコ協会
- 江別ユネスコ協会
- 名寄ユネスコ協会
- 苫小牧ユネスコ協会
- 倶知安ユネスコ協会
- 恵庭ユネスコ協会
- 知床ユネスコ協会
- 稚内ユネスコ協会
- 北広島ユネスコ協会
- 江差ユネスコ協会

東北ブロック (45)

- 一般社団法人青森県ユネスコ協会
- 秋田県ユネスコ連絡協議会
- 秋田ユネスコ協会
- 横手ユネスコ協会
- 岩手県ユネスコ連絡協議会
- 釜石ユネスコ協会
- 北上ユネスコ協会
- 花巻ユネスコ協会
- 前沢ユネスコ協会
- 水沢ユネスコ協会
- 盛岡ユネスコ協会
- 陸前高田ユネスコ協会
- 久慈ユネスコ協会
- 東山ユネスコ協会
- 川崎ユネスコ協会
- 宮古ユネスコ協会
- 江刺ユネスコ協会
- 二戸市ユネスコ協会
- 平泉ユネスコ協会
- 一関ユネスコ協会
- 遠野ユネスコ協会
- 千厩ユネスコ協会
- 大船渡ユネスコ協会
- 浄土寺ユネスコ協会
- 衣川ユネスコ協会
- 滝沢ユネスコ協会
- 一戸ユネスコ協会
- 宮城県ユネスコ連絡協議会
- 気仙沼ユネスコ協会
- 白石ユネスコ協会
- 公益社団法人仙台ユネスコ協会
- 塩釜ユネスコ協会
- 富谷ユネスコ協会
- みやぎ北ユネスコ協会
- 酒田ユネスコ協会
- 福島県ユネスコ連絡協議会
- 須賀川地方ユネスコ協会
- 福島ユネスコ協会
- 会津ユネスコ協会
- いわきユネスコ協会
- 白河ユネスコ協会
- 郡山ユネスコ協会
- 郡山次世代ユネスコ協会
- 一般社団法人新潟市ユネスコ協会
- 佐渡ユネスコ協会

関東ブロック (72)

- 栃木県ユネスコ連絡協議会
- 足利ユネスコ協会
- 佐野ユネスコ協会

- 日光ユネスコ協会
- 開倫ユネスコ協会
- 群馬県ユネスコ連絡協議会
- 太田ユネスコ協会
- 桐生ユネスコ協会
- 沼田ユネスコ協会
- 前橋ユネスコ協会
- 大泉ユネスコ協会
- 安中碓氷ユネスコ協会
- 伊勢崎ユネスコ協会
- 高崎ユネスコ協会
- 富岡ユネスコ協会
- 藤岡地方ユネスコ協会
- 中之条ユネスコ協会
- 館林ユネスコ協会
- 埼玉県ユネスコ連絡協議会
- 寄居地方ユネスコ協会
- 認定特定非営利活動法人さいたまユネスコ協会
- 深谷地方ユネスコ協会
- 越谷ユネスコ協会
- 蓮田・白岡地方ユネスコ協会
- 秩父ユネスコ協会
- 茨城県ユネスコ連絡協議会
- 土浦ユネスコ協会
- ひたちなかユネスコ協会
- 北茨城ユネスコ協会
- 水戸ユネスコ協会
- 茨城県西地方ユネスコ協会
- 千葉県ユネスコ連絡協議会
- 柏ユネスコ協会
- 木更津ユネスコ協会
- 千葉ユネスコ協会
- 成田ユネスコ協会
- 富里ユネスコ協会
- 認定特定非営利活動法人 市川市ユネスコ協会
- 浦安市ユネスコ協会
- 四街道市ユネスコ協会
- 船橋ユネスコ協会
- 八街ユネスコ協会
- 香取・佐原ユネスコ協会
- 八千代ユネスコ協会
- 東京都ユネスコ連絡協議会
- 朝日生命ユネスコクラブ
- 特定非営利活動法人目黒ユネスコ協会
- ふるさと東京ユネスコ協会
- 小平ユネスコ協会
- まちだ・さがみユネスコ協会
- 港ユネスコ協会
- 渋谷ユネスコ協会
- 大田ユネスコ協会
- ユネスコ・アルムニ・クラブ
- 杉並ユネスコ協会
- 特定非営利活動法人としまユネスコ協会
- 千代田ユネスコ協会
- スプリングユネスコクラブ
- 武蔵野ユネスコ協会
- 玉川大学ユネスコクラブ
- 全国的青年連絡組織
- 特定非営利活動法人 平和の文化東京ユネスコクラブ
- 特定非営利活動法人 維新隊ユネスコクラブ
- 学び舎江戸東京ユネスコクラブ
- 一般社団法人新宿ユネスコ協会
- 舞音の守ユネスコクラブ
- スポーツと平和を考えるユネスコクラブ
- ミンガラバー・ユネスコクラブ
- 浅草ユネスコ協会
- ICUユネスコクラブ
- 立川ユネスコ協会
- 立教セカンドステージ大学ユネスコクラブ

中部東ブロック (23)

- 山梨県ユネスコ連絡協議会
- 甲府ユネスコ協会
- 山梨市ユネスコ協会

- 富士川町ユネスコ協会
- 忍野ユネスコ協会
- 長野県ユネスコ連絡協議会
- 長野ユネスコ協会
- 飯田ユネスコ協会
- 松本ユネスコ協会
- 上田ユネスコ協会
- 特定非営利活動法人木曾ユネスコ協会
- 諏訪ユネスコ協会
- 静岡県ユネスコ連絡協議会
- 磐田ユネスコ協会
- 清水ユネスコ協会
- 浜松ユネスコ協会
- 静岡ユネスコ協会
- 沼津ユネスコ協会
- 伊豆ユネスコクラブ
- 神奈川県ユネスコ連絡協議会
- 厚木ユネスコ協会
- 横浜ユネスコ協会
- 特定非営利活動法人鎌倉ユネスコ協会

中部西ブロック (21)

- 富山県ユネスコ連絡協議会
- 富山ユネスコ協会
- 富山ユネスコ協会 青年部
- 氷見ユネスコ協会
- 南砺ユネスコ協会
- 石川県ユネスコ協会
- 柏玉ユネスコ協会
- 高山ユネスコ協会
- 大垣ユネスコ協会
- 各務原ユネスコ協会
- 名古屋ユネスコ協会
- 豊橋ユネスコ協会
- 三重県ユネスコ連絡協議会
- 名張ユネスコ協会
- 津ユネスコ協会
- 紀北町ユネスコ協会
- 鳥取ユネスコ協会
- 松阪ユネスコ協会
- ユネスコクラブ日本ライン
- 菟野ユネスコ協会
- ふくいユネスコ協会

近畿ブロック (42)

- 長浜ユネスコ協会
- 彦根ユネスコ協会
- 京都府ユネスコ連絡協議会
- ユネスコ京都クラブ
- 舞鶴ユネスコ協会
- 福知山ユネスコ協会
- 京都ユネスコ協会
- 大阪府ユネスコ連絡協議会
- エリーニ・ユネスコ協会
- 特定非営利活動法人大阪ユネスコ協会
- 堺ユネスコ協会
- 箕面ユネスコ協会
- 一般社団法人大阪北河内ユネスコ協会
- 奈良県ユネスコ連絡協議会
- 奈良ユネスコ協会
- 天理ユネスコ協会
- 斑鳩ユネスコ協会
- 吉野ユネスコ協会
- 飛鳥・橿原ユネスコ協会
- 和歌山県ユネスコ連絡協議会
- 和歌山ユネスコ協会
- 橋本ユネスコ協会
- 紀南ユネスコ協会
- 紀北ユネスコ協会
- 貴志川ユネスコ協会
- 那賀・青洲ユネスコ協会
- 新宮ユネスコ協会
- 岩出ユネスコ協会



- 伊都・高野山ユネスコ協会
- 兵庫県ユネスコ連絡協議会
- 芦屋ユネスコ協会
- 尼崎ユネスコ協会
- 神戸ユネスコ協会
- 三田ユネスコ協会
- 宝塚ユネスコ協会
- 西宮ユネスコ協会
- 伊丹ユネスコ協会
- 相生ユネスコ協会
- 川西ユネスコ協会
- 丹波篠山ユネスコ協会
- 姫路ユネスコ協会
- 三木市ユネスコ協会

中国ブロック (27)

- 岡山県ユネスコ連絡協議会
- 津山ユネスコ協会
- 岡山ユネスコ協会
- 倉敷ユネスコ協会
- 広島県ユネスコ連絡協議会
- 尾道ユネスコ協会
- 広島ユネスコ協会
- 宮島ユネスコ協会
- 東広島ユネスコ協会
- 因島ユネスコ協会
- 山口県ユネスコ連絡協議会
- 宇部ユネスコ協会
- 下関ユネスコ協会
- 下関ユネスコ協会 青年部
- 徳山ユネスコ協会
- 長門ユネスコ協会
- 萩ユネスコ協会
- 光ユネスコ協会
- 山口ユネスコ協会
- 岩国ユネスコ協会
- 防府ユネスコ協会
- 鳥取県ユネスコ連絡協議会
- 鳥取ユネスコ協会
- 米子ユネスコ協会
- 倉吉ユネスコ協会
- 出雲地区ユネスコ協会
- 石見地区ユネスコ協会

四国ブロック (12)

- 香川県ユネスコ連絡協議会
- 高松ユネスコ協会
- 高松ユネスコクラブ
- 丸亀ユネスコ協会
- 愛媛県ユネスコ連絡協議会
- 大洲ユネスコ協会
- 北条ユネスコ協会
- 松山ユネスコ協会
- 今治ユネスコ協会
- 新居浜ユネスコ協会
- 四国中央ユネスコ協会
- 徳島ユネスコ協会

九州ブロック (12)

- 久留米ユネスコ協会
- 大分県ユネスコ協会連盟
- おおいた草の根ユネスコ協会
- 熊本ユネスコ協会
- 日南ユネスコ協会
- 延岡ユネスコ協会
- 都城ユネスコ協会
- 鹿児島ユネスコ協会
- 徳之島ユネスコ協会
- 沖縄県ユネスコ協会
- 沖縄でいごユネスコ協会
- 佐賀ユネスコ協会

維持会員／賛助団体会員 (2022年6月現在 五十音順 敬称略)



維持会員 (142)

株式会社IHI／あおいおニッセイ同和損害保険株式会社／旭化成株式会社／朝日生命保険相互会社／朝日不動産管理株式会社／朝日ライフ アセットマネジメント株式会社／株式会社ADEKA／株式会社アドバンテスト／株式会社アルファ／株式会社ECC／株式会社インフォテック／朝日／株式会社ウィザス／ANAホールディングス株式会社／エクシオグループ株式会社／NPO法人エスピーシーネットワーク／NHSインシュアランスグループ株式会社／NX商事株式会社／エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社／エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社／株式会社エヌ・ティ・ティ・データ／株式会社NTTドコモ／エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社／NTTファイナンス株式会社／株式会社NTTファシリティーズ／株式会社F.L.P／株式会社オーシーエス／株式会社大塚商会 城西営業部 渋谷支店／株式会社岡三証券グループ／沖繩ツーリスト株式会社／株式会社オリエントコーポレーション／特定非営利活動法人 音楽は平和を運ぶ／花王株式会社／株式会社カスタムライフ／関東電化工業株式会社／株式会社かんば生命保険／北日本ビル管理株式会社／株式会社紀伊國屋書店／キヤノン株式会社／共同印刷株式会社／協和キリン株式会社／株式会社クオリアート／株式会社クラウン・クリエイティブ／株式会社クラウン・パッケージ／株式会社クレスコ／株式会社クレディセゾン／黒田精工株式会社／京王電鉄株式会社／株式会社講談社／株式会社幸美グラフィス／国際セーフティ株式会社／サービス・ツーリズム産業労働組合連合会／三幸株式会社／株式会社シーイーシー／JTBグループ労働組合連合会／ジェットスター・ジャパン株式会社／株式会社四国銀行／株式会社資生堂／清水建設株式会社／学校法人尚志学園／株式会社白橋／新光電気工業株式会社／株式会社新生銀行／新菱冷熱工業株式会社／西武信用金庫／清和綜合建物株式会社／株式会社セーフティ／株式会社セブン&アイ・ホールディングス／全国税理士共栄会／税理士法人添石綜合会計事務所／株式会社タイキ／大和証券株式会社／中央日本土地建物株式会社／中部日本放送株式会社／株式会社千代田組／DIC株式会社／株式会社TBSホールディングス／帝人株式会社／株式会社ディッジ／株式会社電通／株式会社電通プロモーションプラス／東急建設株式会社／東急不動産ホールディングス株式会社／東京海上日動火災保険株式会社／東京書籍株式会社／株式会社東京ドーム／東武鉄道株式会社／東洋頭埠株式会社／株式会社東横イン／トッパン・フォームズ株式会社／なないろ生命保険株式会社／西日本電信電話株式会社／株式会社日税ビジネスサービス／ニチモウ株式会社／NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社／日本化薬株式会社／日本軽金属株式会社／日本ゼオン株式会社／日本電信電話株式会社／日本ビストロリンク株式会社／日本放送協会／日本空港ビルデング株式会社／日本農業株式会社／日本メディカルシステムズ株式会社／野村ホールディングス株式会社／株式会社バウコミュニケーションズ／株式会社バンザイ／株式会社PFU／東日本電信電話株式会社／東日本旅客鉄道株式会社／株式会社日立製作所／株式会社ビデオプロモーション／日比谷総合設備株式会社／株式会社フエドリ／富士オフィス&ライフサービス株式会社／富士急行株式会社／富士通株式会社／株式会社富士通エフサス／株式会社富士通ゼネラル／株式会社フジテレビジョン／古河機械金属株式会社／古河電気工業株式会社／株式会社ブロードリンク／株式会社プロジェクトパーク／マイスター会計事務所／三井住友カード株式会社／ミツイワ株式会社／三菱重工株式会社／三菱重工工業株式会社／三菱商事株式会社／株式会社ミライト／株式会社ミロク情報サービス／株式会社ムクダ／メッドサポートシステムズ株式会社／モリリン株式会社／株式会社ヤクルト本社／山崎製パン株式会社／横浜ゴム株式会社／レイ法律事務所／株式会社レインボー・ジャパン／匿名3社

賛助団体会員 (17)

ICOM日本委員会／OMEPE日本委員会／NPO法人関西国際交流団体協議会／一般社団法人国立大学協会／特定非営利活動法人としまNPO推進協議会／一般財団法人日本エスペラント協会／公益社団法人日本空手協会／協同組合日本脚本家連盟／一般社団法人日本国際児童図書評議会／NPO法人日本国際文化遺産協会／公益社団法人日本造園学会／公益社団法人日本図書館協会／一般社団法人日本の節句文化を継承する会／公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会／一般社団法人日本美術家連盟／公益財団法人野村生涯教育センター／WARD世界子孫代理人会

サポーターの声

UNESCOの理念に賛同し、何年にも渡って民間ユネスコ運動を支えてくださっている方々のメッセージをご紹介します。



ユネスコ世界寺子屋運動
広報特使
久保 純子さん

私たちの生活を一変させた新型コロナウィルス。世界寺子屋運動の活動国では、親の経済状況が悪化し、学校の中途退学者が増えたことで寺子屋の需要も高まっています。そして、世界を震撼させているウクライナ侵攻で、1000万人以上の市民が難民状態にありました。日本ユネスコ協会連盟の募金活動を通して、多くの方が力を合わせ、避難者の支援ができました。これからも皆さまの温かいご協力をよろしくお願い致します。



ヴァイオリニスト
UNESCO平和芸術家
二村 英仁さん

昨年パリにてアズレUNESCO事務局長と会った折、70有余年活動に取り組んで来られた日本の民間ユネスコの力について話してまいりました。パンデミックや情勢不安、紛争から教育欠如が深刻な現在、UNESCO理念に賛同してくださる方々や若者をさらに増やし、よりよい未来をつくる努力をしなくてはならないと痛感します。音楽を通じ、各地ユネスコ協会の皆さまと、ともに歩める活動を行ってまいりたいと思います。



歌手
倉木 麻衣さん

2021年に行った私のライブ配信でチャリティグッズとして、ホテアオイのコースターを販売させていただき、たくさんのご支援をありがとうございました。この瞬間も、寺子屋で夢に向かって学んでがんばっているカンボジアの子どもたちや皆さんのいまに、未来に、笑顔が咲き続けていけるように、継続して支援サポートしていけたらと思っています。

企業・団体との連携

2021年度も多くの企業・団体にご協力いただきました。

日本ユネスコ協会連盟は、UNESCO憲章に基づき、志を同じくする人びとや企業・団体と連携して国内外で活動を続けています。

					<small>※企業・団体名は五十音順 (ウクライナ緊急募金については 2022年3月～5月末までご協力いただきました)</small>	

寄付方法のご案内

日本ユネスコ協会連盟の活動は、皆さまからのご寄付で実現しています。私たちの活動の基本姿勢は「Co-Action」として行動するです。ともに社会課題を解決し、平和な世界を築くパートナーとして、皆さまのご協力をお願いします。

寄付で実現できること

3000円のご寄付で ネパールの子どもが学習するための教科書 16冊分 カンボジアで学ぶ子どものための給食 11食分	5000円のご寄付で カンボジアで子どもたちが世界遺産を訪問し学習する 5人分 被災地の子どもを奨学金で進学サポート(48人のご寄付で) 1人を1年間	10000円のご寄付で アフガニスタンで栄養失調の子どものための食糧セット 10人分 寺子屋で識字教育を1年間受け、読み書きができるようになる 1人分

寄付方法のご案内

日本ユネスコ協会連盟へのご寄付は、**税制優遇措置の対象**です。

日本ユネスコ協会連盟への寄付金は、所得税・法人税・相続税の税制上の優遇措置があります。なお、一部の自治体(東京都)では、個人住民税の寄付金税額控除の対象となります。

月1・いいことプログラム (毎月寄付) 口座振替またはクレジットカードにより、毎月決まった金額を寄付いただくプログラムです。金額は1000円からご自身で設定いただけます。	都度のご寄付 郵便振替・銀行振込・クレジットカードにより、ご自身のタイミングで寄付いただく方法です。巻末の振込用紙もご活用ください。	遺贈 遺言によりご自身の財産を贈与(寄付)いただく方法です。不動産の遺贈や相続財産の寄付などのご相談もお受けしています。ご希望の方には、手続き方法などを掲載したパンフレットをお送りします。
---	--	--

寄付方法について詳しくは、ホームページをご覧ください。

<https://www.unesco.or.jp/join/support/>



書きそんじハガキなどのタンス遺産 書きそんじたハガキ、未使用の切手、プリペイドカードなどの「タンス遺産」をお送りください。途上国の教育支援「世界寺子屋運動」の活動資金として活用させていただきます。	古本寄付 (チャリボン) 読まなくなった本をチャリボンにお送りください。買取相当額をユネスコ活動全般への活動資金として活用させていただきます。ネットで申込まないと、ご自宅・職場まで引き取りにきてくれます。	その他 Yahoo!ネット募金 クレジットカードでの寄付や、Tポイントを使って寄付いただけます。
送付先 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1-12F 日本ユネスコ協会連盟 書きそんじ係	https://www.charibon.jp/partner/unesco/ 	メルカリ寄付 メルカリアプリからメルペイ残高で寄付が可能です。寄付先に日本ユネスコ協会連盟をお選びください。
		つながる募金 ソフトバンクポイント寄付やソフトバンクの携帯料金とまとめた寄付、クレジットカードでの寄付が可能です。
送付先 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1-12F 日本ユネスコ協会連盟 書きそんじ係		

企業・団体による寄付のご相談は右記までご連絡ください。 **メール** 企業寄付係: kikaku@unesco.or.jp

寄付方法のご案内

企業・団体との連携

寄付者の声

ご寄付いただいた皆さまから、寄付に託す思いをお聞きました。一部をご紹介します。

できるだけ多くの人に学ぶ機会を広げていただきたい。
(神奈川県 72歳 郵便振込用紙での寄付、月1いいことプログラム)

全世界の平和を願って。
(石川県 74歳 月1いいことプログラム)

これまで自分が人から受けた恩をほんの僅かであれ子どもたちに恩送り(Pay it forward)ができて、という思いが自身の人生を支えています。平和に向かってひとつでも多くの笑顔が生まれますように。
(愛知県 38歳 月1いいことプログラム)

自分にも子どもがいます。当たり前のように学校へ行きましたが、世界には学びたくても学べない子どもがいると知りました。
(北海道 53歳 書きそんじハガキ協力)

人類の遺産を後世に残したい。
(神奈川県 56歳 月1いいことプログラム)

少しでも困っている方の一助になれば、少額でも多くの皆さんが協力すれば大きな力になると思います。
(福島県 71歳 Yahoo!ネット募金)

学びたい人が学べる環境が広がりますように。
(千葉県 39歳 クレジットカード募金)

自分たちの小さな行動で世界の誰かが助かるのなら、協力したい。
(神奈川県 56歳 月1いいことプログラム)

少しでも力になれば、という思いから。
(滋賀県 30歳 書きそんじハガキ協力)

だんだん東日本大震災の報道もなくなり、被災地の現状が伝わらない社会の中で辛い思いをしていらっしゃると思います。奨学金という形で少しでも応援できればと思います。
(東京都 63歳 月1いいことプログラム、書きそんじハガキ協力)

世界の一人間としての協力、愛を込めて貧者の一灯です。
(埼玉県 93歳 月1いいことプログラム、書きそんじハガキ協力)

旅行が好きなので、今まで行った場所やこれから行く場所が困っているなら手助けしようと思い、寄付をはじめました。
(東京都 41歳 月1いいことプログラム)

少しでも未来のために手助けできればと思っています。
(東京都 29歳 書きそんじハガキ協力)

本当はお金だけではなく、具体的な行動もしたいと思っています。
(石川県 48歳 Yahoo!ネット募金)

皆さまの思いを届けられるよう、活動を続けてまいります。引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願いします。

寄付に込めた思いや支援先の人びとへの応援メッセージをお寄せください

本誌添付の振込用紙(払込取扱票)や当連盟ホームページからご寄付いただく際に、寄付に込めた思いや支援先の人びとへの応援メッセージを通信欄にぜひご記入ください。

※いただいたメッセージは、個人が特定されない形で、当連盟のホームページや、広報、広告活動に使わせていただく場合がございます。予めご了承ください。

※本誌添付の振込用紙(払込取扱票)にて、ゆうちょ銀行(郵便局)の窓口からご寄付いただいた場合、振込手数料が免除となります。

会計報告

2021年度 正味財産増減計算書(要約版)

2021年4月1日から2022年3月31日まで

(単位:千円)

科 目	金 額
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
① 経常収益	
基本財産運用益	1,470
特定資産運用益	5,022
受取会費	45,237
事業収益	30,242
受取補助金等	1,459
受取寄付金	445,125
雑収益	3,899
経常収益計	532,455
② 経常費用	
事業費	454,551
管理費	38,846
経常費用計	493,397
評価損益等調整前当期経常増減額	39,058
特定資産評価損益等	12,376
当期経常増減額	51,435
2. 経常外増減の部	
① 経常外収益	0
経常外収益計	0
② 経常外費用	0
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	51,435
一般正味財産期首残高	783,200
一般正味財産期末残高	834,635
II 指定正味財産増減の部	
受取寄付金	339,721
特定資産評価益	0
特定資産評価損	91
一般正味財産への振替額	△325,456
当期指定正味財産増減額	14,174
指定正味財産期首残高	1,454,351
指定正味財産期末残高	1,468,525
III 正味財産期末残高	2,303,160

注:記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

監事による監査に加え、監査法人エムエムピージー・エマック並びに要石公認会計士事務所より監査を受けております。

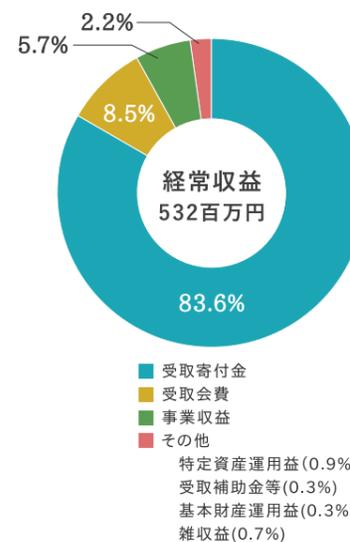
計算書類等、詳しくは当連盟のホームページに掲載されていますので、そちらをご覧ください。

<https://unesco.or.jp/document>

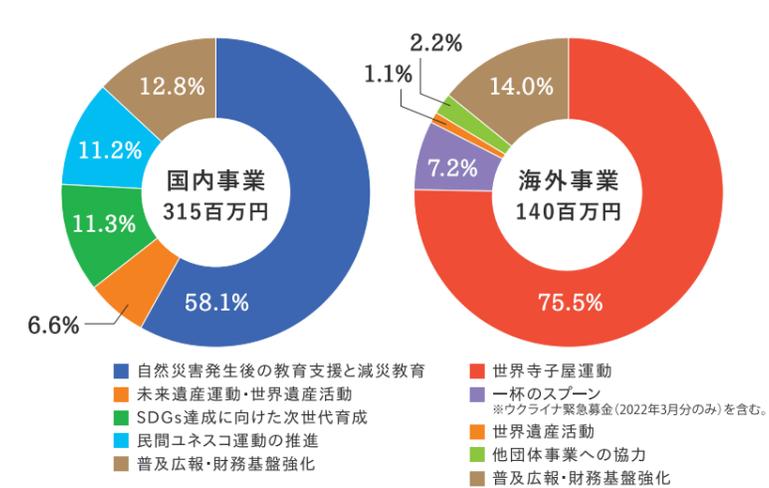


詳しくは
◀こちら

2021年度 経常収益の内訳



2021年度 経常費用のうち事業費の内訳



本グラフは、事業費を2021年度活動レポートのカテゴリに区分して集計しました。

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、 人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

相互の風習と生活を知らないことは、

人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信をおこした共通の原因であり、

この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。

文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、

人間の尊厳に欠くことのできないものであり、且つすべての国民が相互の援助及び

相互の関心の精神をもって果さなければならぬ神聖な義務である。

政府の政治的及び経済的取極のみに基づく平和は、

世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。

よって平和は、失われないためには、

人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。

UNESCO憲章前文より(抜粋)



公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階

TEL. 03-5424-1121 Email. nfuaj_web@unesco.or.jp <https://www.unesco.or.jp>

